



## 2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月9日

上場会社名 理研ビタミン株式会社 上場取引所 東  
コード番号 4526 URL <https://www.rikenvitamin.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山木 一彦  
問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長兼経営企画室長 (氏名) 中川 裕一 TEL 03-5362-1315  
四半期報告書提出予定日 2024年2月9日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	69,058	2.6	7,660	28.4	8,396	29.0	6,080	24.3
2023年3月期第3四半期	67,303	13.0	5,966	31.1	6,507	34.8	4,891	△75.2

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 9,830百万円 (80.3%) 2023年3月期第3四半期 5,451百万円 (△74.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	185.26	—
2023年3月期第3四半期	149.12	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	115,173	79,046	68.6
2023年3月期	105,223	71,371	67.8

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 79,014百万円 2023年3月期 71,345百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	23.00	—	36.00	59.00
2024年3月期	—	30.50	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	44.50	75.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

配当予想の修正については、本日（2024年2月9日）公表いたしました「業績予想の修正および配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご覧ください。

### 3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	90,600	2.1	8,900	24.3	9,700	25.6	8,200	27.8	249.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日（2024年2月9日）公表いたしました「業績予想の修正および配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	33,705,100株	2023年3月期	33,705,100株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	875,416株	2023年3月期	893,316株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	32,821,004株	2023年3月期3Q	32,805,159株

(注) 期末自己株式数には、「役員報酬BIP信託」が保有する当社株式(2024年3月期3Q122,325株、2023年3月期129,696株)及び「株式付与ESOP信託」が保有する当社株式(2024年3月期3Q44,486株、2023年3月期55,274株)が含まれております。

また、「役員報酬BIP信託」及び「株式付与ESOP信託」が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(2024年3月期3Q175,577株、2023年3月期3Q191,680株)。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報)	9
(重要な後発事象)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループは、2030年に向けた中長期ビジョン「持続可能な社会をスペシャリティな製品とサービスで支え、成長する会社になる」を掲げています。2022年4月より2025年3月までの3年間で対象とする中期経営計画においては、①経営基盤（ガバナンス）の強化、②アジア・北米での展開を加速、③国内の深掘りと新領域への挑戦、④サステナブル経営の推進を基本方針として、持続的な企業価値の向上に取り組んでいます。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの事業環境は、日本国内において旅行や外食およびインバウンド消費が回復する一方で、物価上昇による消費者の節約志向の高まりが見られました。海外では世界的な金融引き締めによる成長減速感や地政学リスクの高まりなど、不確実性の高い状況が続いています。

このような状況の中、当第3四半期連結累計期間の売上高は、国内食品事業、国内化成品その他事業が前年同期を上回る実績を確保し、690億58百万円（前年同期比17億54百万円、2.6%増）となりました。

利益面では、海外事業が販売数量の減少などにより減益となりましたが、国内食品事業および国内化成品その他事業において原材料等の高騰に対する価格改定の効果が出たことなどにより、営業利益は76億60百万円（前年同期比16億94百万円、28.4%増）、経常利益は83億96百万円（前年同期比18億88百万円、29.0%増）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は60億80百万円（前年同期比11億88百万円、24.3%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりです。

#### 〔国内食品事業〕

『家庭用食品』の売上高は、前年同期を上回りました。海藻商品では2022年秋発売の新商品「ふりかけるザクザクわかめ®」シリーズがヒットし、乾燥わかめ「ふえるわかめちゃん®」の減少分をカバーしたことで、売上高は前年同期を上回りました。ドレッシングは、主力の「リケンノンオイル」シリーズがTVCM放映時期の見直しや、2023年8月に価格改定を実施した影響で販売数量が減少しましたが、2023年8月に全国発売した「インドカレー屋さんの謎ドレッシング®」がSNSを中心に話題となり、出荷数量が100万本を突破するヒットとなったことが寄与し、ドレッシング全体の売上高は前年同期を上回りました。また、食塩無添加のだし素「素材力だし®」の売上高も前年同期を上回りました。

『業務用食品』の売上高は、前年同期を上回りました。調味料類を中心に外食産業向けの需要回復による販売が伸長したほか、海藻商品でCVS向けの販売が伸長しました。また、原材料費や包材費などの上昇を受けた価格改定や商品の見直しを進めました。

『加工食品用原料等』の売上高は、前年同期を上回りました。価格改定による増収効果に加え、原料の供給不安や食品ロス問題への対応など多様化する顧客ニーズに合わせた食品用改良剤の提案により販売数量も回復傾向にあります。また、医薬品向けのマイクロカプセルの販売が伸長しました。

利益面では、食品原料の高騰の影響を受けたものの、価格改定効果や広告宣伝費の減少により、営業利益は前年同期を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は、前年同期から41億57百万円（9.5%）増加した481億29百万円となり、営業利益は58億23百万円（前年同期比20億34百万円増）となりました。

#### 〔国内化成品その他事業〕

『化成品（改良剤）』では、化学工業用分野（プラスチック・食品用包材・農業用フィルム・ゴム製品・化粧品など）において、顧客ニーズをとらえたソリューションビジネスを展開しています。化成品業界における需要減少の影響により販売数量が減少した一方で、前期中に推進した価格改定の効果により、売上高および営業利益ともに前年同期を上回りました。

『その他』の事業では、飼料用油脂の売上が前年同期を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は、前年同期から5億42百万円（10.2%）増加した58億57百万円となり、営業利益は5億57百万円（前年同期比4億12百万円増）となりました。

## 〔海外事業〕

海外事業では、主に食品用改良剤、化成品用改良剤を世界各地に販売しています。サプライチェーンの安定化に伴う顧客の在庫調整や世界的な景気減速の影響により販売数量が減少したことに加え、油脂相場および海上運賃の下落を受けた価格改定を行ったことにより、中国を除く地域で売上高が前年同期を下回りました。中でも欧州や北米では前年同期に大きく増加した反動で大幅な減収となりましたが、北米のエキス製品については売上高、販売数量ともに伸長しました。利益面では、物流コストの減少が増益要因となったほか、日本の「アプリケーション&イノベーションセンター」と海外の「アプリケーションセンター」の連携によりスペシャリティ品の提案を進めましたが、販売数量減少の影響をカバーするには至りませんでした。

この結果、当セグメントの売上高は、前年同期から32億98百万円（17.0%）減少した160億81百万円となり、営業利益は17億23百万円（前年同期比5億87百万円減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は1,151億73百万円となり、前連結会計年度末に比べ99億50百万円増加しました。主な増加は、受取手形及び売掛金44億12百万円、投資有価証券35億79百万円、現金及び預金10億47百万円であります。

負債は361億27百万円となり、前連結会計年度末に比べ22億76百万円増加しました。主な増加は、短期借入金40億70百万円、その他固定負債22億7百万円、支払手形及び買掛金15億38百万円、主な減少は、長期借入金59億6百万円であります。なお、短期借入金の増加および長期借入金の減少には、長期借入金から短期借入金への振替45億円が含まれております。

純資産は790億46百万円となり、前連結会計年度末に比べ76億74百万円増加しました。主な要因は、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純利益の計上で60億80百万円増加し、剰余金の配当で21億94百万円減少したこと、その他有価証券評価差額金が27億76百万円増加したこと、為替換算調整勘定が10億71百万円増加したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年11月10日に公表した数値を修正しております。詳細につきましては、本日公表の「業績予想の修正および配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	19,155	20,203
受取手形及び売掛金	19,151	23,564
電子記録債権	967	1,263
商品及び製品	8,550	8,303
仕掛品	3,955	4,571
原材料及び貯蔵品	5,230	5,241
その他	1,117	1,573
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	58,126	64,718
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	12,840	12,353
機械装置及び運搬具（純額）	7,841	7,366
その他（純額）	2,955	3,405
有形固定資産合計	23,637	23,124
無形固定資産	645	672
投資その他の資産		
投資有価証券	17,862	21,441
退職給付に係る資産	3,553	3,764
その他	1,401	1,455
貸倒引当金	△3	△3
投資その他の資産合計	22,813	26,658
固定資産合計	47,096	50,455
資産合計	105,223	115,173

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,660	9,199
電子記録債務	597	781
短期借入金	3,306	7,376
未払法人税等	1,163	1,000
引当金	1,211	443
その他	4,984	6,095
流動負債合計	18,924	24,895
固定負債		
長期借入金	11,254	5,348
引当金	163	158
退職給付に係る負債	230	239
その他	3,278	5,486
固定負債合計	14,927	11,231
負債合計	33,851	36,127
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,537	2,537
資本剰余金	2,466	2,466
利益剰余金	58,729	62,615
自己株式	△1,633	△1,594
株主資本合計	62,099	66,024
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,488	9,264
繰延ヘッジ損益	2	2
為替換算調整勘定	2,220	3,292
退職給付に係る調整累計額	533	430
その他の包括利益累計額合計	9,245	12,990
非支配株主持分	26	31
純資産合計	71,371	79,046
負債純資産合計	105,223	115,173

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	67,303	69,058
売上原価	46,202	46,377
売上総利益	21,101	22,681
販売費及び一般管理費	15,135	15,020
営業利益	5,966	7,660
営業外収益		
受取利息	68	146
受取配当金	424	458
為替差益	64	146
その他	169	134
営業外収益合計	726	886
営業外費用		
支払利息	99	85
貸倒損失	32	—
その他	52	65
営業外費用合計	185	150
経常利益	6,507	8,396
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	114	106
補助金収入	9	87
特別利益合計	124	194
特別損失		
固定資産売却損	0	0
固定資産除却損	46	63
固定資産圧縮損	—	73
投資有価証券売却損	0	—
投資有価証券評価損	2	—
特別損失合計	49	137
税金等調整前四半期純利益	6,583	8,453
法人税等	1,689	2,370
四半期純利益	4,894	6,083
非支配株主に帰属する四半期純利益	2	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,891	6,080



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	4,894	6,083
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△678	2,776
繰延ヘッジ損益	△38	△0
為替換算調整勘定	1,380	1,074
退職給付に係る調整額	△107	△102
その他の包括利益合計	556	3,747
四半期包括利益	5,451	9,830
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,443	9,824
非支配株主に係る四半期包括利益	7	6

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当社の連結子会社において、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、当社における税金費用については、年度決算と同様の方法により計算しております。

また、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報)

## I 前第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内 食品事業	国内化成品 その他事業	海外事業	合計		
売上高						
一時点で移転される財	43,972	5,314	18,016	67,303	—	67,303
一定の期間にわたり 移転される財	—	—	—	—	—	—
顧客との契約から生じる収益	43,972	5,314	18,016	67,303	—	67,303
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	43,972	5,314	18,016	67,303	—	67,303
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	1,363	1,363	△1,363	—
計	43,972	5,314	19,379	68,666	△1,363	67,303
セグメント利益	3,788	144	2,311	6,244	△278	5,966

(注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△296百万円、棚卸資産の調整額18百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内 食品事業	国内化成品 その他事業	海外事業	合計		
売上高						
一時点で移転される財	48,129	5,857	15,071	69,058	—	69,058
一定の期間にわたり 移転される財	—	—	—	—	—	—
顧客との契約から生じる収益	48,129	5,857	15,071	69,058	—	69,058
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	48,129	5,857	15,071	69,058	—	69,058
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	1,010	1,010	△1,010	—
計	48,129	5,857	16,081	70,068	△1,010	69,058
セグメント利益	5,823	557	1,723	8,104	△443	7,660

(注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△368百万円、棚卸資産の調整額△74百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(投資有価証券の売却)

当社は、保有する投資有価証券の一部を2024年1月25日に売却いたしました。これにより、2024年3月期第4四半期連結会計期間において投資有価証券売却益（特別利益）を計上いたします。

1. 投資有価証券売却の理由  
政策保有株式の縮減のため
2. 投資有価証券売却日  
2024年1月25日
3. 投資有価証券売却の内容
  - (1) 売却株式  
当社が保有する上場株式 1 銘柄
  - (2) 投資有価証券売却益  
1,895百万円